

令和7年度 第一回津久井やまゆり園地域連携推進会議 報告

●会議の目的

地域連携推進会議は、施設等と地域が連携することにより、以下の目的を達成するための、地域の関係者を含めた外部の方が参画する会議体です。

- ①利用者との関係づくり
- ②地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進
- ③施設等やサービスの透明性・質の確保
- ④利用者の人権擁護

●会議情報

対象施設	障害者支援施設 津久井やまゆり園
日時	令和7年11月13日(木) 13:15 ~ 15:00
場所	津久井やまゆり園大会議室
出席者	A様(津久井やまゆり園利用者) B様(津久井やまゆり園利用者家族) C様(地域関係者、地元自治会会長) D様(福祉知見者、相模原市内県立支援学校校長)
欠席者	E様(経営知見者、地元社会福祉協議会会長) ※所用の為

●内容

1 園長挨拶

本会議開催について、委員の皆さまのご来訪のお礼をする。障害者総合支援法の改正に伴い、本会議の開催義務付けされた。昨年度までは運営協議会として開催していたが、見学を含めて一部内容を変更し、本体施設とグループホームを分けて開催する。また、「障害福祉サービスにおける地域連携推進員手引き」を用いて内容を説明する。

2 自己紹介

3 議題

(1) 園の運営状況等について

津久井やまゆり園の運営状況等について説明する。

(2) 施設見学

園内各セクションの見学を行う。(約1時間)

(3) 意見交換

①B様(津久井やまゆり園利用者家族)

自閉症の利用者さんが見学者を拒否する様子無く、溶け込んでいるように思う。園が変わってきていると感じる。園内で行きかう人の数が多く、活発な印象である。

食事場面を見学したが、同じ時間で食事ができない利用者さんを見守っているところであった。一人ひとりの生活リズムを守っていると感じた。

—園からの説明—

施設なので基本的な食事時間は決められているが、可能な範囲において、個々のペースに合わせた支援をしている。人数が少なくなったこともあり、昔に比べると個別の支援が多くなってきている。

②B 様（津久井やまゆり園利用者家族）

利用者を急かすようなことがなくなってきたようだ。

－園からの説明－

これまで以上に、よりご本人の状況に合わせた支援を行うようになった。A 様に生活の様子を伺う。

③A 様（津久井やまゆり園利用者）

明るくなったら起きる。ご飯を食べたら寝る。津久井やまゆり園は好き。地域生活できるようにがんばっている。

④D 様（福祉知見者、相模原市内県立支援学校校長）

私は地元出身である。中学生の時に津久井やまゆり園の見学に来たことがある。当時は、利用者さんが大勢近寄ってくるなど、正直なところ戸惑ったこともあった。15 年程前に進路指導担当の立場で訪問した際には施設内を見学して広さを感じた。本校には施設入所希望者はいないが、以前の学校では施設入所が必要な生徒がいて見学をさせてもらった。進路担当者として施設入所の順番待ち等について悩みどころである。利用者さんは見学者に慣れているなどと思った。

－園からの説明－

多くの方から入所の相談があり県外からもある。県立施設のため県内在住者を優先している。現在の待機者は、男性 40 名、女性 30 名程である。現在の空床は、既に新規入所者の調整中である。また現在、支援学校からの相談もある。

入所施設廃止の方向で多くの意見があがっているが、一方で川崎市等では入所施設が足りないという意見もある。今後、県立施設は入所定員削減の方向であり、受け皿に課題が生じているのも事実である。千葉県長生村の事件についても、県立施設の役割について対応しきれなかった事例であろう。当園は、民間施設で対応できない方をしっかりと受け止めたいと考えている。

⑤C 様（地域関係者、地元自治会会長）

私自身がこの地に住んで、父が県立施設時代に津久井やまゆり園で働いていた。仲の良い人もいたし、クワガタ採りにも来たりしていた。近隣に住む親族もかなり働いていた。そういう意味では違和感はない。職員公舎に住んでいたこともあり、父の転勤で中井やまゆり園の近くにもいた。

父が働いていた時代とは働き方が変わってきたと思う。利用者支援についても時代の違いを感じる。

以上